

現代英語の文法・語法の実態 (Ⅳ)

北 島 克 一

23. 名詞の性の決定

(a) He took us to where we could see the front driveway of the hotel and he stopped and pointed to a sleek pale-green Cadillac parked close by.

‘Dere she iss. De green one. You like?’

‘Say, that’s nice car,’ the boy said.

‘All right, Now we go up and see if you can win her’.

(下線は筆者が施す。以下同じ) > — R.Dahl, *Someone Like You*.

(b) The only living creature to be seen was a dog with its nose in the drain—as Tom appeared from around a corner, it jumped and looked at him, uttered one sharp bark, and ran away, completely shocked by the interruption. —J. Cary, *The Breakfast*.

(c) ‘Listen’, she would say, ‘someone wants to talk to you. Isn’t he an angel?’—E.Waugh, *Work Suspended and Other Stories*.

(d) If one says “dog” or “cat” in either language, the meaning is perfectly clear, but in order to translate the English word “brother” into Japanese, one must know if it is an elder or younger brother. —D.Keene, *Confessions of a Japanologist*.

(e) Another girl stood and said her name, "Grace Taylor". It was the Captain's niece! Until this time, I had forgotten that she was going to this school, and I had not noticed her among the other students.—M.Kikuoka, *John Mung's Story*.

(f) The *John Howland* pulled up its anchor and set on its long journey to America.—*ibid.*

(g) The name of the ship was the *John Howland* and its captain's name was William Whitfield. —*ibid.*

(h) If it were about a Norwegian surgeon, he would go whaling as a hobby. The cry when the whale is sighted is 'There she blows!' — J.Newman, *Talking to Japan*.

他のヨーロッパ諸国の言語，例えば，ドイツ語やフランス語と異なり，英語の文法上の性（Gender）の区別は自然界の性（Sex）と通例一致している¹⁾ので，あまり問題が生じない。

現代英語では，通例 Gender は(1)男性を表す男性(2)女性を表す女性(3)男女両性を表す通性及び(4)性の区別を考えない無生物を表す中性に区別する。問題点は(4)の中性にあり，勇壮・剛毅・厳粛・怒りなどを連想させる名詞の場合は男性名詞として扱われ，他方，優美・やすらぎ，和やかさを連想させる名詞の場合は女性名詞として扱われる。但し，同一物に対する Gender の決定が，時と場所と人に依って異なる場合があることに注意を²⁾しなければならない。

例文(a)では，Cadillac（自動車）を女性代名詞 she で扱っている。自動車は無生物であり，it で受けることができるが，Cadillac に対する愛情の発露から，Cadillac を it で呼応せずに，敢えて she を用いたものである。A.J.Thomson *et al* は船舶は女性と考えられ，自動車及びその他の乗物も愛情をもって見るときは，女性とみられると述べている。³⁾

例文(b)では犬を中性代名詞 it で受けている。犬は雌雄の別があるが，

M.Swan は個性・知性・感情を有すると考える時、動物はしばしば男性代名詞の he, または女性代名詞の she で呼応する。ペットの飼主は he または she で呼応するが、飼主以外は必ずしもそうではないと述べて、⁴⁾ 犬その他の動物に対する愛情のいかに依って扱いが変わることを示唆している。また、B.Evans & C.Evans も性別不明の興味を引く動物、例えば、逃走した馬、出会った熊などは通例 he で呼応すると述べている。⁵⁾ 従って、第三者的に客観的冷静な気持で犬を代名詞で表現する時は、it で呼応することになる。

例文(c)のように、angel を代名詞 he で呼応するのは我々日本人の感覚からすると奇異の感がする。天使 (angel) の語感は優しさ、上品、可憐などを連想させるので、当然、女性代名詞 she で呼応すると考えられる。しかし、ISED (s.v. angel) には、絵に出てくる天使は通例男性の姿をして、大きな翼が生えていると述べ、⁶⁾ 英語国民の描く angel は我々日本人が「白衣の天使」から連想する可憐な女性とはかなり異なっている。従って、angel を he で呼応することになる。

例文(d)及び(e)は、明らかに人間の性別がはっきりとしているにも拘らず、it で呼応している例である。もちろん、baby, child など通性名詞に呼応する場合は通例 it であるが、baby, child と言えども、家族の者は彼等を it で呼応することは先ずないであろう。例文(d)及び(e)はいずれも自然の性 (Sex) がはっきりしているが、それにも拘らず、it で呼応している。これは(d)の場合 brother=he で呼応という意識より先に elder であるか younger であるかの方が先に意識に立ち、sex は後退してしまった結果、it で呼応し、また、(e)の場合は Grace Taylor=a girl=she の冷静な文法的判断に先立って、Grace Taylor が居たことが思いがけない、全く予期しない事態であったために、非文法的な it が口を突いて出たものである。即ち、いずれの場合も文法よりは心理的要素が優先した結果と言える。

例文(f)及び(g)は船舶を代名詞 *it* で呼応している。先に例文(a)のところで述べたように、無生物名詞であるが、船舶は通例人称代名詞 *she* で呼応する。G.O.Curme に依ると、代表的な船舶名 *ship* は古代フランス語 *nief* の類推から女性扱いになったとのことであるが、⁷⁾ 愛着をおぼえ、親近感を感じるものとして、女性代名詞が用いられるのが普通である。R. Quirk *et al.* も船舶その他愛情を感じる対象物は人称代名詞で表現する。所有するスポーツカーを誇りに思う持主は *it* でなくて、*she* または *he* (持主が女性の場合) で呼応するだろうと述べている。⁸⁾ 従って、船舶を *it* で呼応するのは、客観的に冷静な態度で船舶に接することを意味する。

例文(h)は鯨を女性代名詞で呼応している。性の区別のある生物の中、獐猛・強大などの感じを与える動物及び他の生物、例えば、*tiger*, *lion*, *bear*, *eagle*, 及び *dog* などは男性として扱われ、一方、可憐、優美、優しさ等を連想させる動物及び他の生物、例えば、*cat*, *sparrow*, *lark* 及び *parrot* 等は女性として扱われるのが通例である。

例文(h)の鯨は、哺乳動物であり、獐猛な感じはないが、強大な感じを与えるといえ、我々の常識からは、むしろ男性として扱うのが妥当のように思える。しかし、毎年開催される「国際捕鯨委員会」において、捕獲数の削減が検討され、且つ 1972 年に開かれた「国連人間環境会議」で捕鯨の 10 年間全面禁止の勧告決議がなされたことからわかるように、英語国民（とは限らないが）は鯨に対し、我々日本人とは違った親近感を抱いているようであり、その結果、鯨を女性扱いすることになる。

24. 語順

(a) If I returned home to my wife and children they would not know, They would open the door and stare flankly at me. My

children would want to know who is this large, bald Negro. — J.H.Griffin, *Block Like Me.*

(b) He pointed to various parts of the map and he seemed to be asking which place was my country. — M. Kikuoka, *John Mung's Story.*

(c) My husband Lee Guber is a theatrical producer, so I'm aware of how tedious and frequent are the offers of "great ideas" for plots, or casting. — B.Watters, *How to talk with practically anybody about practically anything.*

或る一定の思想を表現する場合に、一定の語順に従うことは、英語も他の言語と同じである。疑問文が従属節をなす時は、疑問節の中の語順は (S + V) であることは学校文法の教えるところであるが、例文は疑問節が (V + S) の語順になって学校文法の教えと異なっている。⁹⁾

O.Jespersen は語順の決定には次の七つの要素が作用すると説いている。(1)現実感 (Actuality) (2)修飾語の先行 (Precedence of Modifier) (3)統合 (Cohesion) (4)均整 (Relative Weight) (5)強勢とリズム (Stress and Rhythm) (6)伝統 (Tradition) であり、¹⁰⁾これらの要素は多くの場合にくっつか重複して、文の語順に影響を及ぼすと考えられる。

例文(a), (b)及び(c)は独立の疑問文の場合は、それぞれ(a) Who is this large, bald Negro? (b) Which place was my country? (c) How tedious and frequent are the offers of "great ideas" for plots, or casting? という文になる。(a)の場合は this large, bald Negro, (b)は my country, (c)は the offers of "great ideas" for plots, or casting を主語(部)と見なすことができ、この場合にそれぞれ (V + S) の語順になる。

一般に、第一に主部は短く、述部は長い文はその反対の文より均整が取れて、安定感を増す。また、文の最後に重い感じの語(句)が来ると、そうでない場合より安定感が増す。第二に心理的プロセスを考えてみるに、

例文(a)の場合を例にとると, Who is this large, bald Negro? → My children would want to know. のような意識の流れが感じられる。従って, 発話者の心理的プロセスを忠実に辿って行ったらば, 例文(a)の文が構成されることになる。第三に, (a)の場合は this large, bald Negro が主語でなくて who が主語であり, (b)は my country が主語でなくて, which place が主語であるという考えも成り立つ。但し, (c)の how tedious and frequent は主語になり得ないことはもちろんである。従って, 例文(a)及び(b)の場合は, それぞれ (S + V) の関係が成り立つと言える。

以上の説明を上述の O. Jespersen の説に適用すると, 第一の説明は Jespersen の(4)均整であり, 第二のそれは(1)現実感に該当することになる。殊に, 文の最後に重い語句を置いて, 文全体のバランスを取り, 安定感を増そうとする無意識の意図は, 文のリズムと共に, 語順決定に大きな力を持つと言える。

25. 冠詞の慣用の揺れ(2)

(a) In ancient times doctors diagnosed illnesses by how their patient smelled. Typhoid fever was said to produce a smell like hot bread, measles like freshly plucked feathers, insanity like the scent of mice or deer, plague like honey, yellow fever a butcher-shop odor. — *Reader's Digest* (Aug., 1982).

(b) He can't wear jewelry, a watch or a belt, and he can't read, write, listen to radio, watch television, go to school, live at home or be alone with his family. — *Reader's Digest* (Sep., 1982).

(c) He read novels, went to movies, and watched a lot of baseball games. — J. Seward, *The Japanese*.

(d) Late last month, in a decision that has generated considerable

controversy, a Royal Commission recommended that Thomas be given nearly \$1million in compensation for legal costs and the time he had spent behind bars an amount (after 10% interest) roughly equal to \$74,000 for each year, — *Time* (Dec. 15, 1980).

すでに拙稿で述べているように、¹¹⁾言語には省略化・節約化現象があり、これが新しい言語事実を生み出している。¹²⁾もちろん、イギリス英語にもこのような現象が見られるが、アメリカ英語には一層この現象が顕著であると言える。OE では現在ほど定冠詞が多用されていなかったことを考えると、ここに挙げた例文のような冠詞の省略化・節約化現象は Archaism への復帰と言えないことはない。

例文(a)の病名 measles は無冠詞で用いられているが、『冠詞活用辞典』には《だれでもかかる、「例の」という意味を含む場合は、定冠詞をつける》として、The Child had the measles last year. (その子は去年はしかにかかった) “This is a bad job about the measles, doc,” he said. — S. Maugham, *Rain*. (「先生、はしかで困ったことになりました」と彼は言った) の2例が収載されている。¹³⁾但し、M. Swan には無冠詞の “Measles takes a long time to get over.” が載っている。¹⁴⁾O. Jespersen は、「病名に対する冠詞の使用は、かなりの揺れがある。」と称して、“he suffers from gout (measles, scarlatina, etc.)” は今日無冠詞で用いるのが通例であると述べている。¹⁵⁾また、plague (ペスト) は *OALD* ¹⁶⁾(s.v. plague) には the ~, =bubonic plague (腺ペスト) とあり、通例定冠詞をつけて用いることを示している。

例文(b)は本来 ‘listen to the radio’ と身近な存在である radio に対しては定冠詞をつけ、‘watch television’ と我々に対して、比較的新しい存在である television に対しては、無冠詞で用いることになっている。しかし、最近のように television も殆どの家庭に入り込んで、身近な存在になると、television に定冠詞がつく例が出てくると思う。

例文(c)の「映画に行った」は 'went to the movies' のように、通例定冠詞を伴う。OALD(s.v. movie)にも "How often do you go to the ~s?" と定冠詞がついている。この例のように movies が無冠詞で用いられているのは、言語の省略化・節約化現象に加え、直前の 'read novels' が無冠詞であることに心理的に引きずられた為に生じた現象と言える。

例文(d)の 'behind bars' (獄中で) は『新活用』¹⁷⁾ (s.v. bar) に He spent a night behind [the] bars. (鉄窓の下に一夜を明かした) の例が載っている。また、『表現辞典』¹⁸⁾ (s.v. bar) には 《behind (the) bars は比喩的な使い方で「刑務所 (prison) の中」の意で, He spent a night behind the bars. (彼は刑務所の中で一晩すごした) というように使う》とあり、いずれも定冠詞が出没している。従って、本来定冠詞の有無は自由であるが、言語の省略化、節約化現象の波に乗って、無冠詞の例が増えつつあると思われる。

(e) In no time a police-van bounced to a stop outside, with siren screaming and lights flashing. — J.Aiken, *Arabel's Raven*.

(f) In the first book in this series (THE AMERICANS AND THE JAPANESE), I wrote about the mountain men of the American West, who often went alone into the mountain for months at a time to trap the beaver for its fur. — J.Seward, *An American's America*.

(g) But during the short time that the mountain men trapped beaver in the high mountains of the West, they made a very strong impression on the imaginations of the American people with their spirit of independence, their self-reliance, and their thirst for adventure. — *ibid.*

(h) Living alone or in small bands a thousand miles from the nearest settlements, they spent their lives trapping beaver in the swift-flowing mountain streams. — F. Thistlethwaite and others, *The Americans — Ways of Life and Thought*.

(i) Little girls, already afflicted with math anxiety, may now fall victim to computer anxiety as well. — *Newsweek* (Jan., 17, 1983).

(j) Alcoholism has long been recognized as a major disease among men, but it is only recently that large numbers of women have fallen victim to it as well. — J. Kundsén, *The Next Stage — Men and Women in the Eighties*.

(k) Recently I was attending a party in an area of town I didn't know very well. — J. Pearce, *Viewpoints — Seeing Japan from all Sides*.

例文(e)の siren は可算名詞であるが、無冠詞で用いられている。一色マサ子氏に依ると、s や th で始まる名詞の前では、韻のために the が省かれることがあるとのことである。¹⁹⁾ この場合もそのために定冠詞が省略されていると理解される。

例文(f), (g)及び(h)の beaver の場合は、(f)が beaver に定冠詞をつけて、普通名詞の扱いをしているのに対し、(g)及び(h)は無冠詞で集合名詞の扱いをしている。

例文(i) 及び(j) の「犠牲になる」を引くと、²⁰⁾ *SOED* (s.v. victim) には、To fall a v. to (some thing or person) と不定冠詞を伴い、『新活用』 (s.v. victim) には、The celebrated Dutch East India Company fell the victim of its own maladministration. 有名なオランダ東インド会社はその会社自身の不始末から悲境に陥ったのだ // fall a victim to the charm of a lady — 婦人の色香に迷う // fall a victim to stagefright 舞台負けがする // fall a victim to one's foolhardiness (passion) 向うみず(など)のために失敗する〔類〕 fall a victim to consumption, yellow fever 等が載っているが、victim はいずれも冠詞を取っている。但し『新活用』 (s.v. fall) には、// fall victim to Spanish influenza スペインかぜにかかる // のように、victim に無冠詞の例が載っている。

日常よく用いられる動詞が目的語を取って、慣用的イデオムを作る時に用いられる目的語は抽象名詞か、または抽象名詞的に用いられた普通名詞であるために、無冠詞である。²¹⁾ fall a victim もこれらイデオムからの類推作用に依って、普通名詞の victim が抽象化されて、無冠詞で用いられるようになったと思われる。

例文(k)のように、普通名詞の town が無冠詞で用いられるのは、O.Jespersen に依ると、自分に関係のある都市、即ち自分の仕事があるか、事務所を持っている場合であり、in, to, from, about などの前置詞を併用するとある。²²⁾しかし、B.Evans & C.Evans は、慣用的に city は定冠詞を取るが、town は定冠詞を取らないとして、We go to town, but to the city. We live in town but in the city. 及び We get out of town, but out of the city. などの例文を挙げて、Jespersen とは多少異なった見解である。²³⁾ISED (s.v. town) には、town を（前置詞を伴い、無冠詞で）郊外に対立する都市の商業・娯楽の中心地であると定義して、I'm going down to do some shopping. He's in town somewhere. の例文を載せている。例文(k)に用いられている無冠詞の town は働き口があるとか、事務所を有するなどの何等かの関係がある town でないことは明らかである。しかし、B.Evans & C.Evans 及び ISED はこのように自分に関係ない town の場合でも、慣用的に無冠詞で用いられるとしている。

(l) They decided that it would be better to send me to the public school than to hire a private tutor. By going to school, I would be able to meet other students of my age. — M.Kikuoka, *John Mung's Story*.

(m) The Nairobi National Park covers just 44 square miles, yet is home to an estimated 10,000 wild animals. — *Reader's Digest* (Aug., 1982).

(n) At the Meru National Park, which has just six of the rare white rhino, armed rangers accompany the animals while they browse during the day. — *ibid.*

(o) Malpas estimates that three-quarters of the park's wildlife was destroyed, yet he feels that some will recover. Kob, a species of antelope, were killed by the thousands, yet they breed so rapidly that there now are more than ever. — *ibid.*

「学校へ行く」は無冠詞で 'go to school' と言い、この場合「学校へ授業を受けに行く」の意味となる。従って、授業・課業に出席する以外の目的で学校へ行く時は、'go to the school' のように定冠詞を伴うことになる。しかし、例文(l)の 'send me to the public school' は定冠詞を伴っているが、「私を公立学校に通学させる」の意味であることは明らかである。因みに、『新活用』(s.v. school)には「he was attending a school kept by …彼は…経営の学校に通っていた。」の不定冠詞を伴った例文が載っているが、この場合は「…が経営するある種の学校」というニュアンスが入って来るので、不定冠詞を伴うことになる。同様に、或る特定の地域で、その地域内に public school は一校しかない時や、または、他に public school があったとしても、話し手と聞き手の間にすでに了解済みの public school である場合は、定冠詞を伴うことになる。

例文(m)及び(n)は固有名詞を含む公園名に定冠詞がついているが、通例このような場合は無冠詞である。例えば、ロンドンの Regent's Park やニューヨークの Central Park などがその例であるが、O.Jespersen は無冠詞と定冠詞を伴う二通りの表現ができる例として、ロンドンの (the) Green Park を挙げている。²⁴⁾ また、H.Poutsma は昔は Regent's Park は定冠詞をつけていたと述べている。²⁵⁾ 原則的には、固有名詞を含む公園名には定冠詞をつける必要はないが、定冠詞の有無は慣習に依って定まることが多いと言える。

例文(o)は「何千と」を 'by the thousands' と定冠詞をつけて表現しているが、『新活用』 (s.v thousand) は次の表現を載せている。 'The white ants came streaming out by thousands. 白ありが何千となく群れをなして出て来た。 // be sold by the thousand. 千を単位で販売される。〔類〕 The birds flock together by [the] thousands/"Rugger" has its followers (ラグビーをやるものが) by thousands in London. この例で用いられている by は per を意味し、「千を単位で」は by the thousand = per the thousand のように定冠詞を伴った単数形の thousand が用いられる。しかし、「何千と」とは通例無冠詞で by thousands と表現し、定冠詞を伴った by the thousands はむしろアメリカに見られるようであり、言語の省略化・節約化現象とは反対の冗漫化現象の表れである。

26. 前置詞の省略 (副詞的目的格を中心にして)

(a) After the bad headache the first day, only one thing really hurt him. That was when he had to have all his hair cut close to his head the morning of the operation. — J.Gunther, *Death Be Not Proud*.

(b) For example, the day of my arrival in Kyoto my friend had business at the Suntory Distillery in Yamazaki and took me along. — D.Keene, *Confessions of a Japanologist*.

(c) The night of my arrival in Japan I went directly from the airport to Tokyo Station and boarded the last night train for Tokyo. — *ibid.*

(d) Then, Thursday morning, the searching plane appeared overhead and dropped food. — *Reader's Digest* (Nov., 1979).

(e) Her eyes were filled with interest as I told her the things I had told Mrs. Whitfield the night before. — M.Kikuoka, *John Mung's*

Story.

(f) Well, so all three theories were applied in freshman English the fall of 1939, and one-third of that freshman class got introduced to semantics through my textbook. — S.I. Hayakawa, *Language and Culture & Others*.

(g) The opening night there was a terrible snowstorm, and even though the review in *The New York Times* the following day was favorable, the newspaper could not be delivered because of the snow. — D.Keene, *Meeting with Japan*.

(h) Mrs. Whitfield continued her questions about Japan as she prepared a lunch for me to take to school the following day. — Kikuoka, *op. cit.*

(i) I can't help regretting also that I have absolutely no recollection of the conversation the night I had dinner at Tanizaki *sensei's* house in Kyoto with Shiga Naoya. — Keene, *op. cit.*

(j) The United States comes bottom in the league table of productivity increases in industrial countries. — *The Economist* (Jan. 20, 1979).

例文(a)~(h)はいわゆる副詞的目的格 (Adverbial Objective) と呼ばれるものである。機能語の一つである前置詞は、G.O. Curme に依ると、一定の口語表現ではしばしば省略される。何故ならば、あまり強勢が無く、意味上重要性に欠けるからである。²⁶⁾歴史的にみると、古代英語の時代に名詞の対格が副詞として用いられた名残が、今日の副詞的目的格であって、本来前置詞の省略というのは当を得ないであろうが、ここでは一般的考えに従って、前置詞の省略と呼ぶことにする。

副詞的目的格は(1)時間・(2)距離・(3)方法・様態・(4)数量・度数・量目・程度などを表現する時に用いられる。例文(a)~(h)はいずれも時間に関する

もので(a)は (on) the first day, (on) the morning of the operation (b)は (on) the day of my arrival in Kyoto (c)は (on) the night of my arrival in Japan (d)は (on) Thursday morning (e)は (on) the night before (f)は (in) the fall of 1939 (g)は (on) the opening night, (on) the following day (h)は (on) the following day のそれぞれのかっこ内の前置詞が省略されたものと考えられる。例文(i)の場合は (on) the night が接続詞として機能している。

このような前置詞の省略は、イギリスにおいてよりもアメリカにおいて多く、年輩者の作品の中よりは、当然若い人の作品の中に多く見い出される。更に、ここに挙げた例文は十分な数とは言えないが、これらの例文から「時」に関する前置詞の省略が多いことが推察できる。

例文(j)は bottom が副詞として用いられている。即ち come bottom=come (to the) bottom であり、かっこ内の to the が省略されている。因みに、アメリカでは最近 place が副詞的に用いられることが多く、'go places' の表現が用いられる他、anyplace と一語にして副詞的に用いることがある。C.Evans & B.Evans は 'I could not find it anyplace' の例文を挙げて、ここでは anyplace は anywhere の代りに用いられており、多くの文法家はこの用法を非難し、英国では容認されていないが、アメリカでは非常にしばしば話し言葉のみならず書き言葉にも用いられて、非標準的とは言えず、容認された語法であると述べている。²⁷⁾ また、home をアメリカでは He is home. のように at をつけないで、home を副詞として用いることが多い。このような言語的発展の延長線上に、bottom を副詞扱いとする come bottom が生まれたと言える。

27. 前置詞の慣用の揺れ(3)

- (a) It was getting late and Captain suggested that everyone go to

bed. Mr. Whitfield continued her questions about Japan as she prepared a lunch for me to take to school the following day. — M. Kikuoka, *John Mung's Story*.

(b) I received the fellowship, and in the autumn of 1947 I went to Harvard to continue my graduate studies — D. Keene, *Confessions of a Japanologist*.

(c) After a year at Harvard I again ran out of money, this time because the Chinese Government, beset by a civil war, could not continue paying my monthly stipends. — *ibid.*

(d) But those of us who continued with Japanese were voracious in our desire to learn as much as possible from Tsunoda sensei. — *ibid.*

「Aを続ける」は 'continue A', または 'continue with A' の形で表現する。前者は continue が他動詞扱いで、後者は自動詞扱いである。Current には 'continue with A' の A には, work, study, task, hobby, pastime などが来るとして, The teacher told the class to continue with their work while he was out of the classroom. や I don't propose to continue with chemistry beyond Form IV. などの例文が載っている。²⁸⁾

しかし、例文(b)は continue my graduate studies と study の一種である graduate studies を目的語としているが、continue with でなくて、continue を用いている。『新活用』(s.v. continue) には、Bacteriology continues today with its patient, useful work. 細菌学は今日もその忍耐強い有益な仕事を継続している。// continue (=go ahead) with one's work (study, meal, luncheon) 仕事(など)を続けるとある。

'continue with A' と 'continue A' の語感の差は、前者が A と with を通して間接的に結びつき、後者は直接的に A と結びついているので、後者の方が強い意識を受ける。したがって、「続ける」の意識を主語(無生物も含まれる)が強く持つ場合は、'continue A' の型を用いることになり、

その意識が割合希薄の時は 'continue with A' の型を用いることになると言える。また、言語の省略化・節約化現象の一環として、前置詞 with が動詞に吸収される総合化の表れとして、'continue with A' が従来用いられるべき所に、'continue A' が用いられる現象もおこる。

(e) Americans who fancy ivory carvings might well ponder the manner in which many elephants are killed, Poachers in Zaire sometimes poison waterholes used by elephants, killing all the animals that drink from them. — *Reader's Digest* (Aug., 1982).

(f) Biologists such as Robert Henkin of Georgetown University Medical Center are pondering novel uses for fragrance. — *ibid.*

(g) As he pondered his decision, Paul began to feel a kinship with Dmitry. — *Reader's Digest* (Sep., 1982).

(h) I translated the Captain's request. Fudenojo, our chief, pondered upon the request for several times. — M.Kikuoka, *John Mung's Story*.

ponder はそのまま他動詞として用いることができる他、'ponder on A' または 'ponder over A' の形で用いることができる。Current (s.v. ponder) は ponder over を consider slowly and thoughtfully (じっくりと慎重に考慮する) と定義して $POD^{29)}$ が ponder を think over (熟考する) と定義しているのに対し、一層とくと考えることを示している。

(i) *Old people are generally sick.* In fact, people over 65 have about half as many *acute* illnesses as those between 17 and 44. Granted, people who live a long time do tend to accumulate *chronic* conditions and may also suffer sensory loss. — *Reader's Digest* (Aug., 1982). (原文イタリック体)

(j) Mr. Kikuchi of Sony also added that if this 'high mental temperature' should ever change, Japan's technology might suffer a terrible shock. — J.Newman, *Talking of Japan*.

(k) I am beginning to suffer badly with amnesia. — *ibid.*

動詞 suffer は通例 'suffer A', 'suffer from A', 'suffer for A' などの形をとる。'suffer A' は一時的に負傷・発作・事故・敗北などのために、苦しむ、悩むことを意味するのに対し、*Current* (s.v. suffer) は 'suffer from A' を be regularly afflicted (常時悩む) または 'have a weakness (欠点がある)' と定義している。E.Partridge は 'suffer with' に関して 'suffer from a disease or disability' の代りに、suffer with を用いるのは良くない。何故なら、「苦しみ」は病気からおきるからだと述べている。³⁰⁾ また、*AHD* には、通例 suffer with より suffer from が好まれる。例えば、He suffered from hypertension. の例では、94 パーセントの人は suffer with を用いてはいけないと言っている。但し、医学上は、suffer with は現実の痛みや不快感と関連ある場合に用いるとある。³¹⁾

28. 新語

新しい時代の要請に対応して新語が生れてくるのは、いつの時代、またいかなる国においても事情は同じである。ある個人またはグループに依って、たまたま造られた新語が、ある特定の狭い集団の中で短期間使用されて、やがて消失する場合もあるし、また反対にその時代の社会的・言語的要請に応えているために、広い集団中で長期間用いられ、やがて権威ある辞書に採択されて、その地位を確立する場合もある。

本稿では、英語を母国語とする人達の書いた新聞、雑誌・書籍等の中から、『小学館ランダムハウス英和大辞典』³²⁾ に収載されていないか、または収載されていても意味・説明等の不十分と思われるものを新語として選定することにした。

(a) 複合語

(1) I learned to forget the yesterdays and to not-think of the to-

tomorrows. (昨日を忘れ、明日のことも考えないことを学んだ。) — D.Carnegie, *How to Stop Worrying and Start Living*.

(2) Along with this went on an in-depth discussion of how she had reacted and why. (これと並んで、彼女の反応の仕方や理由についての突っ込んだ話し合いが行われた。) — J.Fast, *Body Language*.

(3) Asked to explain, my friend said, “The house was one of those up-tight places, the tightest one I’ve ever been in. (説明を求められると、「その家は窮屈で、私が今まで住んだ中で一番窮屈だった。」と友人は話した。) — *ibid*.

(4) A LESS-THAN-TWO-INCH-LONG Australian frog is making a big splash in scientific circles because she broods her babies in her stomach. (原文大文字) (長さ2インチ足らずのオーストラリアの蛙が胃の中で卵を孵化するので、科学者の間にセンセーションを巻き起こしている。) — *Reader’s Digest* (Aug., 1982).

(5) The tastes and flavors of Vietnamese food are unique, and, until fairly recently, were little-known outside their country of origin. (ベトナム料理は独得な味があるが、つい最近まで、発祥地ベトナム以外では、ほとんど知られていなかった。) — *ibid*.

(6) If you are buying a computer today, it is near-certain that you’ll be buying others in the future. (今日コンピューターをお買いになっても、恐らく近い中に別の製品を買われるでしょう。) — *Business Week* (Jan. 15, 1979).

(7) And there are many cut-price flights from Japan to most American and European cities. (日本から主要欧米都市向けの割引価格の航空便がたくさんある。) — J.Kirkup, *Students International*.

(8) Here, young people, and the young-at-heart, can really feel at home, in their own place, “doing their own thing.” (ここでは、青年も

気が若い人達も好きな所で、勝手な事をやりながら心からくつろげる。)

— *ibid.*

(9) Plenty of money, and the almost universal use of “the pill” (except in Japan) are the reasons why both young men and young women live as equals in physical and sexual freedom undreamed-of ten or twenty years ago. (豊かな上に、日本国内を除いて、殆ど各国でピルが使用されていることが、10乃至20年前は夢想だにされなかった肉体的及び性的自由を青年男女が平等に享受するゆえんである。) — *ibid.*

(10) For one thing, while the Federal Reserve has pushed interest rates to near-record levels, it has been painfully slow to reduce the availability of money. (一つには、連邦準備局は利率を記録的ともいえる水準へ押し上げたが、資金運用はなかなか低下しなかった。) — *Business Week* (Jan., 15, 1979).

(11) In the midst of all this moving around, Ebasco in 1969 started experimenting with matrix management (BW—Jan., 16, 1978), a system in which technical people—the mainstay of Ebasco’s 4500-person work force—were responsible for bottom-line results as well as for engineering excellence.—*ibid.* (これらあらゆる動きの中で、エバスコ社は1969年にマトリックス経営の実験を始めた。これはエバスコ社4,500人の社員の中核的存在である技術者が技術の進歩に対してのみならず、業績悪に対し責任を負った制度である。) — *ibid.*

(12) Finally, says Weiss, many latch-key kids of single parents gain a head start on maturity. (最後に、片親のかぎっ子は一足早く大人になる者が多い、とバイスさんは言う。) — *Newsweek* (Jan., 17, 1983).

(13) As a result of their computer experiences, today’s microkids will surely confront the world in a different way than their parents did. (コンピューターを経験した結果、今日のコンピューターキッド《コ

ンピューターの操作に慣れた子供》は社会への対応が親とはきっと違うだろう。 — *Reader's Digest* (Oct., 1982).

(14) Yet the consequence of heroism, all too often, is an ego-rendering compulsion to continue in a larger-than-life role, a task at which few succeed. (しかし、英雄的行為は崇高な役割を続けるために、あまりにもしばしば自己を犠牲にして献身する仕儀になるが、これにうまくいく人は少ない。)

— *Time* (June 14., 1981).

(15) Slash-and-burn farmers have reduced most of upland Haiti to a rocky skelton. (焼畑農民のために、ハイチの高台はあらかた岩だらけで草木が無くなった。) — *Reader's Digest* (Dec., 1981).

(16) These teams proceeded to make a fine-tooth survey of the ships' medical records. (これらのチームは船内のカルテの綿密な調査を始めた。) — A. Toffler, *Future Shock*.

(17) "Sit-in" and "Swim-in" are recent products of the civil rights movements; "teach-in" a products of the campaign against the Vietnam war; "be-in" and "love-in" products of the hippie subculture. (座り込みやスィム・イン《黒人が人種差別に抗議のため白人専用プールに入って泳ぐこと》は最近の公民権運動の産物である。ティーチ・インはベトナム戦争反対運動の産物である。集会やラブ・イン《愛を表現する目的で集まるヒッピー族》は、ヒッピー族特有の行動様式の産物である。) — *ibid*.

(18) Every day from nine in the morning until nine at night, there is an almost continuous rap session. (毎日午前9時から夜9時まで、殆ど休みなしに特定問題に関する集団討論が行われる。) — *Reader's Digest* (Sep., 1982).

(19) Some experts, though, are starting to warn that a paucity of engineers may hold back American economic and tecnological develop-

ment. High-tech companies in the Sunbelt and the Northeast seem most concerned. (しかし、専門家の中には、少数の技術者がアメリカ経済及び技術の発展の妨害になる恐れがある旨の警告を始めた者がいる。サンベルト地帯及び東北部の高技術会社は最も不安を感じているようだ。) — *Time* (May 10., 1982).

(20) Children wash their cash gleefully, and then after dabbing their banknotes with handkerchiefs return them to their wallets amid sniggers; adults perform the ceremony more seriously as if they half-believe the superstition that washed money will multiply. (子供達は大喜びでお金を洗い、ハンカチでお札を軽くたたいた後、忍び笑いをしながら、またお札を財布へ入れる。大人達はお金を洗うと増えるという迷信を半ば信ずるかのように、ずっと真剣な顔付きでその行事をやっている。) — J. Haylock, *Japanese Excursions*.

(21) In late 1970, and again in 1976, the NLRB denied such petitions, ruling that owner-operators perform essentially the same duties as over-the-road drivers who are company employees. (1970年後半及び1976年に再度、米国労働争議調停局はこの種の請願を却下して、オーナードライバーは会社雇用の長距離輸送の運転手と本来同等の義務を遂行する旨の裁定を下した。) — *Business Week* (Dec., 25 1978).

(22) Trying to open the Japanese market to U.S. imports has always been an exasperating, no-win proposition. (アメリカに対する日本市場解放案は常に物議をかもして、通らない提案だった。) — *ibid.*

(23) The Japanese car's value-for-money reputation derives at least in part from this. (日本車は値段相応の価値があるという評判の一部は少なくともここから生まれる。) — *Reader's Digest* (Dec., 1981).

(23) A high-school girl who is reasonably balanced could not imagine herself head-over-heels in love with a man she knows absolutely

nothing about. (ちゃんとした常識のある女子高校生が、身許を全然知らない男と灼熱の恋をするなんて考えられない。)

—*Newsweek* (Jan., 7, 1971).

(24) Is anyone going to care if they're displeased? Either you can apply every kind of jawboning pressure you can muster, or you stay out of it entirely. (彼等が腹を立てるかどうかが誰か気にするだろうか。君はありとあらゆるジョーボーニング《有力者による統制や抑制を目的とした産業界・労働界の指導者に対する強い警告》の圧力を行使するか、または全く傍観するかのいずれかである。) — *Newsweek* (Jan., 14, 1971).

(b) 接辞

(1) The sessions are moderated by at least two staff members—usually boys and girls in their late teens who were once “druggies” themselves. (会は少なくとも二人のスタッフ——通例自分自身昔麻薬に汚染されていた10代後半の少年少女の司会である。) — *Reader's Digest* (Sep., 1982).

(2) When they have the money, Hongkongites are big-time spenders, living as if there were no tomorrow. (香港人はお金を持つときれいさっぱり使ってしまい、明日という日がないような暮らし方をする。) — *ibid.*

(3) If these are discussed afterwards, the touchers and touchees can find a new awareness of themselves and their neighbours. (もしこのことを後日討論したならば、他人の身体に触る人も、他人から自分の身体に触られる人も自分自身や他人のことについて新事実を発見できる。) — J. Fast, *Body Language*.

(4) Dr. Arnold Buckheimer, professor of education at the university, explained that the the first step in unlocking came through showing

the videotape (taken without the knowledge of either the counsellor or the counsellor) to the counsellor. (大学の教育学教授, アーノルド・バックハイマー博士は心のかぎを開く第一歩は《カウンセラーかまたはカウンセラーを申し込んだ人が知らない中に撮った》ビデオテープを, カウンセラーに見せることから始まると説明した。) — *ibid.*

(5) It is a sad fact that young people ignore or despise or distrust the old — a phenomenon particularly strong in the USA, where the old family systems have broken down, and where contempt for the old or the not-so-young has produced, by analogy with “sexism”, the new word “ageism”. (青年が老人を無視するか, 軽べつするか, または信用しないのは悲しい事実である。この現象は特にアメリカで強く, そこでは古い家族制度が崩壊し, 老人または年輩者を軽べつする気持が「性差別」にならって, 「年令差別」の新語をつくりだした。)

— J. Kirkup, *Students International*.

(6) A judge in Wisconsin told a rape defendant in his court that it was not the rapist's fault that the crime had happened. (ウィスコンシン州の判事は, 犯罪がおきたのは強姦者の責任ではない旨法廷で被告に申し渡した。) — B. Bowman, *To Look for America*.

(C) 転化

(1) By policing drug companies, food makers and auto manufacturers, we can encourage them to produce decent merchandise and advertise it honestly. (私達は薬品会社, 食品メーカー, 自動車メーカーを監督することで, それら会社が立派な商品を生産し, 商品の公正な広告をするよう指導できる。) — *Reader's Digest* (Nov., 1979).

(2) Even after the hospital stay, the job of parenting is becoming more aequally distributed. (退院後でさえ, 親としての役割を果す仕事が前よりも平等に振り当てられている。) — B. Bowman, *To Look for*

America.

(d) 頭文字

(1) If the Russians are sensible, they will not MIRV the SS-11. They will MIRV the huge, 25-megaton SS-9. (もし、ロシア人が賢明ならば、SS-11 に多弾頭各個目標再突入ミサイルを装備しないで、巨大な25メガトンのSS-9 に装備するだろう。) — *Newsweek* (June 14, 1971).

以上挙げた例文から大体の傾向が掴めるが、(a)の複合語の例が圧倒的に多く、次いで(b)接辞、(c)転化、(d)頭文字の順である。

因みに、(a)複合語をその構成要素の本来の機能に従って、品詞別に分類すると次のようになる。

(1) 複合名詞

(i) 「名詞＋名詞」 matrix management, bottom-line, latch-key, rap session

(ii) 「形容詞＋名詞」 fine-tooth, high-tech³³⁾, near-record, microkid³⁴⁾

(iii) 「動詞＋名詞」 cut-price

(iv) 「副詞＋名詞」 in-depth

(v) 「動詞＋副詞」 swim-in, love-in

(vi) 「副詞＋動詞」 no-win

(vii) 「語群複合語」 young-at-heart

(2) 複合形容詞

(i) 「副詞＋形容詞」 up-tight, little-known, near-certain

(ii) 「過去分詞＋前置詞」 undreamed-of

(iii) 「名詞＋現在分詞」 jawboning

(iv) 「語群複合語」 less-than-two-inch-long, larger-than-life, slash-and-burn, over-the-road, value-for-money

(3) 複合動詞

「副詞＋動詞」 not-think, half-believe

(4) 複合副詞

「語群複合語」 head-over-heels

上例の中、less-than-two-inch-long は臨時にハイフンを用いた即席的な語形態であるが、これを除いても語群複合語が多いことがわかる。(1)の複合名詞の例が最も多くて14例を数え、次いで、複合形容詞の10例、複合動詞の2例及び複合副詞の1例と続いている。また、複合名詞の中では、「名詞＋名詞」の語形態をとるものが最も多く、これは語群複合語の多用と共に、アメリカ英語の特徴をなしている。

(b)の接辞は接頭辞と接尾辞に分れるが、ここに挙げた例はいずれも接尾辞の場合であり、すべて名詞である。

例文(1) druggie の —ie, —y は本来固有名詞の語尾につけて、愛らしさを表わす指小辞で、Thomas に対する Tommy, Ann に対する Anny などを挙げるができるが、最近では単に固有名詞に対してのみならず、一般に広く用いられて、例えば、dad に対する dady や pants に対する pantie などを挙げるができる。

例文(2)の Hongkongite の —ite は地域や集団の人達を示す接尾辞であり、例えば、Tokyoite, Laborite などが挙げられる。

例文(3)の toucher に対する touchee 及び(4)の counsellor に対する counsellee、すなわち、—er または —or に対する —ee の接尾辞の用法はアメリカでは次第に増えつつある。他の例として、detainee, evacuee, trainee などが挙げられる。

例文(5)の ageism の —ism は形容詞や名詞に付加して、主義、特性を示すものであり、heroism, modernism, nationalism, sectionalism など数多くの類例を挙げるができる。

最後に、例文(6)の rapist は rape+ist である。—ist は動作主を示す

接尾辞であり、例として cyclist, maxiste, naturist などが挙げられる。

(c)の転化に関して言えば、ME時代に屈折の大部分を喪失した現代英語は転化が容易である。中でも動詞から名詞へ、また反対に名詞から動詞への転化が最も多く見られる。例(1)及び(2)はそれぞれ名詞 policy 及び parent が動詞に転化したものである。最も印象的な転化の例は助動詞 must の名詞へのそれであろう。must は「絶対不可欠なもの」の意味の名詞として用いられることは周知の事実である。

(d)の頭文字は固有名詞の頭文字の組合せによって生まれるものが多く、官庁、会社、団体などの増大しつつある事務機構の為、その組織を簡潔に表現する必要性から新しい頭文字が生れてくる。ここに挙げた MIRV は M(ultiple) I(ndependently targeted) R(eentry) V(ehicle) の頭文字の組合せで、通例大文字で書かれる。しかし、日常よく用いられる radar は ra(dio) d(etecting) a(nd) r(anging) の頭文字であるが、通例小文字で書き、発音は [réidar] である。MIRV も綴り字通りに、[mə:rv] と発音されるので、やがて小文字で書かれることになろう。

なお、MIRV は名詞から動詞へ転化した例である。

注 1) 英語の場合も、OE の時代には、ドイツ語、フランス語と同様に三つの Gender があった。この Gender は現代のドイツ語・フランス語と同様に、生理上の Sex と一致することが多いが、一致しない場合も随分とある。

2) 例えば、時に関して言えば、OED には sun という名詞に対し、女性名詞 *sunne* が16世紀まで用いられたが、現在は男性名詞として扱われるとある。

The Oxford English Dictionary, London: OUP. 1933. [OED]

3) A.J.Thomson and A.V.Martinet, *A Practical English Grammar*. London : OUP. 1960. P.8.

4) M.Swan, *Practical English Usage*. London : OUP. 1980. P.258.

5) B.Evans & C.Evans, *A Dictionary of Contemporary American Usage*. New York : Random House. 1975. p.196.

6) A.S.Hornby *et al.*, *Idiomatic and Syntactic English Dictionary*. Tokyo : Kaitakusha. 1942. [ISED]

- 7) G.O.Curme, *Syntax*. Baston : Heath. 1931. p.555.
- 8) R. Quirk *et al.*, *A University Grammar of English*. London : Longman. 1973. § 4.64.
- 9) 但し, What is the matter with ~? の場合, 従属節となっても語順は変らない。
- 10) O.Jespersen, *A Modern English Grammar on Historical Principles*. Heiderberg, London, Copenhagen : Allen, Munksgaard. 1909-1949 VII 2.1, [MEG]
- 11) 「冠詞の慣用の揺れ」『千葉敬愛経済大学研究論集』第20号. 1981.
- 12) 反対の現象として, 冗慢 (Redundancy) もみられる。
- 13) 金口儀明『英語冠詞活用辞典』大修館. 1970. p. 224. [『冠詞活用辞典』]
- 14) Swan, *op.cit.* 430.
- 15) O.Jespersen, *Essentials of English Grammar*. London: Allen. 1933. 16.67. [Essentials]
- 16) *Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English*. London : OUP. 1974. [OALD]
- 17) 勝俣銓吉郎編『新英和活用大辞典』研究社. 1958. [『新活用』]
- 18) 大塚高信編『英語表現辞典・英語の語法 / 語彙編』研究社. 1969. [『表現辞典』]
- 19) 一色マサ子『冠詞』(英文法シリーズ9) 研究社. 1954. p. 76.
- 20) *The Shorter Oxford English Dictionary on Historical Principles*. London : OUP. 1973. (SOED)
- 21) 例えば, take place, make love to ..., give way to ..., keep step with ... などが挙げられる。
- 22) Jespersen, MEG VII 15.25.
- 23) Evans, *op, cit.* p.93.
- 24) Jespersen, *Essentials*. 16.53.
- 25) H.Poutsma, *A Grammar of Late Modern English* : Part II The Part of Speech IA : P.Noordhoff-Groningen. 1914. p.580.
- 26) Curme, *op. cit.* p.566.
- 27) Evans, *op. cit.* p.36.
- 28) A.P.Cowie & R.Mackin, *Oxford Dictionary of Current Idiomatic English*. vol.I.London : OUP 1975. (Current)
- 29) *The Pocket Oxford Dictionary of Current English*, London : OUP. 1969. (POD)
- 30) E.Partridge, *Usage and Abusage*. London : Hamilton 1947. p.315.

- 31) *The American Heritage Dictionary of the English Language*. New York : American Heritage. 1969. [AHD]
- 32) 『小学館ランダムハウス英和大辞典』小学館. 1973.
- 33) tech は technology の略語であるから, ここに分類する。
- 34) micro はギリシャ語由来の造語要素(連結形)で small の意味を表わすが, 便宜的にここに分類する。